

豪州木造船祭りへの焼津八丁櫓出艇と日本人村開設

2011年6月

NPO 法人焼津八丁櫓まちづくりの会

豪州木造船祭り実行委員会との交流

去る2月11日～2月14日の4日間、焼津市の姉妹都市であるタスマニア州ホバート市で開催された木造船祭りに焼津八丁櫓を出艇し、合わせて祭典会場に日本人村を開設し和船の櫓漕ぎ・帆走技術と日本文化の紹介を行った。2月8日に成田出国し、現地の準備を進め、2月10日夕刻5時半より、日本人村関係者と共に立食スタイルの歓迎パーティーに出席した。会場には八丁櫓チームのメンバーを受け入れてくれたホームステイの方々も招待されており、和やかな雰囲気の中で開会された。

まず、バレンタイン市長から姉妹都市である焼津の八丁櫓出艇と日本人村開設に対し歓迎・感謝の挨拶があり、続いて小竹在メルボルン日本国総領事館首席領事から長年にわたる日豪の協力関係の紹介が行なわれた。豪州との姉妹都市協定を結ぶ焼津市が長年にわたり活動を積極的に継続しているとの発言が印象的であった。

加藤団長より清水焼津市長から預かった親書をホバート市長及び祭典実行委員長にお渡しし、又、焼津八丁櫓まちづくりの会よりお二人に八丁櫓の写真パネルを贈呈した。

最後に今回の日豪間プロジェクトの推進の労をとっていただいた芙美子さんの紹介があった。広いホールでは豪州の有名な民謡であるウオッチングマチルダの曲にのった“港群舞”が踊られ、さらに“羽子板による羽根つき”が演じられた。

2月11日夕刻、6時半より祭典会場内のテントで実行委員会主催の祭典歓迎会が開催された。祭典実行委員長の挨拶の中で八丁櫓及び日本人村の出席に対する感謝の意が述べられた。会場にはバンドの演奏があり、興に乗った出席者の中から自然に踊り出す人が出るような楽しい雰囲気であった。

2月13日夕刻、6時半より実行委員会主催の祭典夕食会が開催され八丁櫓、日本人村及びホームステイの方々も他の関係者と共に招待された。当地のパーティー形式で、アルコール類等の飲み物は出席者各自が持参し、会場ではビュッフェ方式の食事が沢山用意されていた。主催者の挨拶の後、直ぐに食事が始まり、それぞれのテーブルで賑やかな会話が繰り広げられた。デザートが提供された後、日豪の男女2名の飛び入りダンスが披露され夕食会が盛り上がった。

焼津八丁櫓チームの活動

2008年にフランスのブレストで開催された BREST2008 国際帆船祭の際、当地を訪れていたバレンタインホバート市長と木造船祭実行委員長の要請があつて八丁櫓を出艇した経緯もあり、現地の見物者に櫓漕ぎの体験乗船とオープンシップを積極的に行った。

体験乗船を合計10回、帆走を1回、オープンシップを4日間行った。体験乗船では1回につき約20名の乗船を受け入れたが、希望者が多く乗船できなかった見物者も出てしまった。帆走時には、めずらしい帆船と見えて周囲を帆走する多数のヨット、カヌー、観光船が八丁櫓に近づきしきりに写真を撮影していた。

オープンシップでは岸壁に着岸している八丁櫓を上から見てもらうように横付けした。着岸場所が丁度日本人村の目の前ということもあり、大勢の見物人でにぎわい、八丁櫓に関する沢山の質問を受けることになった。主柱に掲げた“こいのぼり”は特に興味を引いたようであった。また、変わった木造船とのことでスケッチを描く人や、どのように建造したのかといっ

た専門的な質問もあり、見物者の関心の深さに驚いた。



八丁櫓の補修に対し1豪ドル(約85円)寄付していただくということで八丁櫓のパンフレットを配布したところ、約530人もの賛同者があり驚き感謝した。加えて、子供達にヨーヨーや八丁櫓バッチの配布を行ったところ見物者には大好評であった。

豪州木造船祭り(Australian Wooden Boat Festival)の概要と日本人村

豪州木造船祭りは、2年毎にタスマニア州ホバート市で開催されているもので、外国も含め豪州各地から木造船が集まり港内に係留して見学の受け入れ、港内・港外の帆走・櫓走あるいは機走巡航を行ない、その魅力を参加者一同で楽しむというものである。加えて木造船の建造模擬やいろんな海事関係のショップも出店している。今回は入場料がフリーということもあり、これまでになく大勢の見物者が集まったとの大評判であった。また、好天に恵まれたことも参加者数を引き上げたものと考えられる。

日本人村では連日、日本文化(踊り、着付け、折り紙・ラッピング、お茶、生け花、太鼓、柔道)の紹介と日本食(手打ちそば、寿司、お好み焼き)の無料供食を行なった。会場には見物人が列をなし、担当者は大忙しで対応をした。調査捕鯨に関する国際問題の渦中にある現地において日本文化を現地の方々に伝えようとする真摯な姿勢は、見物人に伝わり大変好評であった。日本人村テントの様子と活花紹介の写真を以下に紹介する。



最後に、八丁櫓の海上輸送と日本人村の開設に対し深甚なるご支援をいただいた地方自治体、企業、諸団体の各位に心から御礼申し上げます。